



インドネシア訪問報告



南関東営業所 所長
佐藤真広

3月初旬、社長の井口とインドネシア視察をして参りました。

弊社のお取引先がインドネシアに進出していたこともあり、もっと早い段階で伺いたかったのですが、機会を逃しており今回初めてのインドネシア出張となりました。

それでは今回の出張で得たインドネシア概況について、簡単にご説明させていただきます。

インドネシアは東南アジア南部に位置する共和制国家で、赤道にまたがる1万3千もの島々によって構成されております。国土の面積は日本の約5倍、人口は米国に次ぐ世界第4位（2.48億人）と非常に人口が多い国でもあります。首都はジャカルタ（ジャワ島）にあり、国民の88%がイスラム教信者という世界最大のイスラム人口国としても知られております。

政治は昨年末の大統領交代でジョコウィ新政権に変わったため、今後の動きが注目されています。経済は、補助金付き燃料の値上げや食料品の高騰など、インフレ率が問題となっており、昨年末の政策金利の追加利上げやルピア安の影響から、





2014年の経済成長率は5.1%と前年を下回る結果となっております。

今年はやや低成長と予想されており、インフレなどの影響により平均賃金は月3万円弱と3年間で2倍ほどに高騰したそうです。しかしタイに比べれば、まだ半分くらいの人件費ということもあり、将来的な伸び代も期待できる魅力的な市場だと思えました。

今回、初めてジャカルタへ赴き、現地での移動中に感じたことは「道路の混雑ぶり」と「日本車の多さ」でした。

移動手段は自動車が主力のため、道路は日本の帰省ラッシュのような状態が日常となっているそうです。島々から成り立つ土地柄のため、交通手段は自動車に限られている傾向にあり、車の絶対量が道路事情とマッチしていない状態でした。現在、ジャカルタ空港から都心部に地下鉄を建設中

ですが、都心部はその工事の影響で更に混雑が激しいそうです。

そして日本車の予想以上のシェアに大変驚きました。昨年の自動車市場の販売台数は121万台ですが、その9割以上を日系企業が占める割合となっており、それに伴う日系の生産工場の多さと規模はとても印象的でした。

現在は首都圏混雑の解決策として、カラワン地区に工業地帯を移す計画が進んでおり、多数の日系自動車メーカーが工場移設を進めていました。ジャカルタより西に50kmほど離れた地域となりますが、カラワン港の貿易港建設に合わせての計画とのことです。

さらに2014年の政策でエンジン部品（5C）を国産化すれば5%免税される関税制度が設けられました。これまでは組立工場が主流でしたが、この制度により部品加工業の進出が増え始めているそうです。インドネシアは、現地ローカル企業が少なく自動車部品に関しては、ほぼ輸入に頼っている状況のため、この先も日系企業の進出が増えると思われます。

日系企業のアジア戦略が現地生産型に進む折、日本国内の空洞化に対し、改めて危機感を考えさせられる出張でした。海外と国内の両立、もしくは海外拠点の進出が今後避けられないものとなるのでは、と危惧しております。

